

ライフサポート：はた

NO 11 : 2013. 11. 11

四万十市中村大橋通7丁目1-24

連合高知西地協内 TEL:34-9191

発行責任者：事務局 石井 孝

西部労福協研究集会に参加して

幡多ライフサポートセンター 菊地 清人

去る11月7日～8日の両日、山口県山口市湯田温泉にて、西部労福協主催の研究集会が開催され（総勢100名）幡多ライフサポートセンターから、石井・幾久・曾根・菊地の4名が参加しました。

一日目は、山口大学教授 稲葉和也氏により「アベノミクスと地域経済への影響」と題して講演があり、アベノミクスの「三本の矢」から、一本目金融政策、二本目の財政政策、三本目の成長戦略についての説明がありました。

第一の矢・第二の矢は、基本的に異常事態に対応するための応急対策であること、中期的に持続すべきものではなく、中期的に最も重要な課題は、経済成長と財政再建の両立であり、真の意味での「社会保障の一体改革」である。経済が成長すれば税収も増え、問題が解決するという議論があるが金融超緩和が着実な経済成長をもたらす保証はない。

そこで第三の矢が必要となるが、現在までのところ成長戦略にはあまり実質的な内容がなく、むしろ規制緩和、自由化を強調する新自由主義的な考え方が出ていて、それは「改革なくして成長なし」と主張した小泉改革路線の復活とも見られ、もしそれとインフレが同時に起こるならば改革の「痛み」は弱い人々がもっぱら引き受けることになってしまうと結ばれた。



続いて「信頼が生み出す力」と題して、社会福祉士、精神保健福祉士の富井宏美氏より講演を受けました。

彼女は社会福祉士と同時に現役のモデル（超美人）として京都市中央保護所入職のかたわら、主に福祉系大学などで講義・講演会を行っているということで、興味深く拝聴しました。

福祉の世界に入り、福祉3K+1K（キツイ・汚い・危険+給料安い）という悪いイメージに直面するが、施設の入所者との心のふれあい・思いやり・コミュニケーション等、多くのキーワードを基に彼女自身の目線で実践・体験をすることにより、最後に信頼を得ることができるという前向きな話に共感を覚えました。



二日目は、特別講演でレクリエーションコーディネーター長谷英治氏による「笑いのススメ」と題して カラダうごかしココロもほぐす 笑いの健康法（笑いヨガ）について、実体験をいたしました。

「作り笑い」と「本物の笑い」を脳は区別しないので、笑いを練習するだけで、本当に笑った時と同じような効果が得られるという科学的根拠のもと、体感をいたしました。昨夜の懇親会、二次会等で若干疲れ気味の当方にとってはかなりハードな運動であったが、心身両面健康になったような気がしました。なお、笑いヨガは現在世界70ヶ国以上に広まり、職場・医療・福祉・教育の現場で取り入れられているそうです。